

映画と話  
@TAMA

# 10

映画を観た後に仲間や監督などゲストとグラスを傾けながら話し合う。それは映画館でもDVDでもネットでも味わえないダイナミックで貴重な体験です。  
映画について人と語り合い、その意見の多様さに直接触れる豊かさ。自宅のようにくつろげるバーで、お酒に美味しいお料理も。  
静かに耳を傾けるだけでもいい。来れば何かが変わるかも。

人生を映画にする。映画が人生を変える。  
ガンで「声」を失くした佐野和宏、18年ぶりの復活作

人生を映画にする。映画が人生を変える。

ガンで「声」を失くした佐野和宏、18年ぶりの復活作

(c)「But only love...」製作運動体

(2015年/89分/ブルーレイ上映)

2016 7/30(土) ①16:00 ②18:00

開場15分前、上映終了後トークなしで入れ替え

懇親会 19:30 1時間

ゲスト: 佐野和宏監督

入場料: ¥1,500 (各回入替15名)

懇親会: 1ドリンク軽食つき ¥1,500

場所: ダイニングバー・モンキーランド  
多摩市豊ヶ丘1-11-1(小田急・京王多摩センター駅徒歩15分)

お申し込みは、予約フォーム [www.taenoha.com](http://www.taenoha.com)

または 050-5891-1977 [office@taenoha.com](mailto:office@taenoha.com)

主催: たえのは

たえのは

たえのは

検索



/taenoha



@taenoha



# 映画と話 そう #10

@TAMA

2016年 7月30日(土)

## タイムスケジュール

16:00 1回目『バット・オンリー・ラヴ』上映

18:00 2回目『バット・オンリー・ラヴ』上映

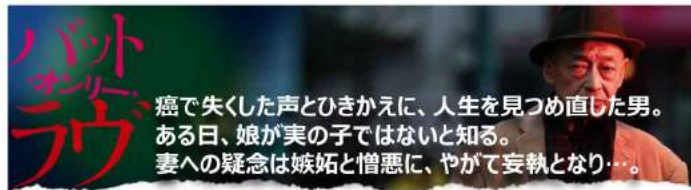
19:30 懇親会 1時間 佐野和宏監督

開場15分前、上映終了後トークなしで入替、全席自由

## 懇親会ゲストプロフィール

### 佐野和宏監督

1956年静岡県生まれ。映画監督、脚本家、俳優。明治大学在学中に松井良彦、石井聰互（現 石井岳龍）らと出会い、『錆びた缶空』（79年）、『狂い咲きサンダーロード』（80年）などに出演。その後、ピンク映画に関わり、出演作は100本を超える。82年に自主製作した『ミミズのうた』で脚本、監督、主演を自らこなすスタイルを確立。同作は「PFF 1983」に入選、エジンバラ映画祭、アントワープ映画祭などに出品された。88年に『追悼のざわめき』（松井良彦監督）に主演。89年に『監禁 ワイツナ前戯』（『最後の弾丸』）でピンク映画監督としてデビュー、ドラスティックな作品を次々と発表し、瀬々敬久、サウトシキ、佐藤寿保らとともに「ピンク四天王」と呼ばれる。しかし、97年の『熟女 のはらわた 真紅の裂け目』（『ふくろうの夏』）以降、監督作から遠ざかっていた。2011年6月に咽喉癌が見つかり、7月に手術を受け声帯を失う。本作『バット・オンリー・ラヴ』で18年ぶりに監督に復帰した。



癌で失くした声とひきかえに、人生を見つめ直した男。ある日、娘が美の子ではないと知る。妻への疑念は嫉妬と憎悪に、やがて妄執となり…。

監督・脚本・主演：佐野和宏

円城ひとみ 酒井あずさ 鮎川みほ 芹澤りな 柄本佑 緒方明 川瀬陽太 工藤翔子 吉岡睦雄 飯島洋一  
 プロデューサー：寺脇研 | 撮影：田宮健彦 | 録音：弥栄裕樹 | 美術：飯森剛裕 | 編集：菊池智美  
 助監督：坂本礼 | 特殊造形：松井祐一 | 音楽：藤啓生 佐藤全太 | ステール：浅田トシエ  
 制作：国映株式会社 | 製作：「But only love…」製作運動体 | 配給：東風  
 2015 | HD | 16:9 | 日本 | 89分

www.but-only-love.com



叫びたくても声が出ない、届かない。愛を求め、確かめようともがく男の淫靡で孤独な旅が始まる。

ユーモアとペーソス！ エロティシズム！ あの佐野映画がスクリーンに甦る！！

## 映画と話 そう 今後の予定

●8月27日(土)映画と話そう@TAMA #11  
 末端ヤクザが、運命を狂わせていくバイオレンス「大阪蛇道」  
 石原貴洋監督(2013年/日本/110分/BD)



●9月24日(土)映画と話そう@TAMA #12  
 韓国政府の無能さとメディアの共謀を批判する「ダイビング・ベル/セウォル号の真実」  
 アン・ヘリョン監督(2015年/韓国/89分/BD)

「ピンク四天王」と称され、97年以降、メガホンをとることはなく、2011年に咽喉癌を患い声帯を失っていた…

佐野和宏がついに18年の「沈黙」を破った。佐野は闘病の跡が刻まれた体躯をさらし、筆談でスタッフに指示をだし、俳優たちを演出する。「佐野の映画が見たい！」とプロデュースを手がけたのは映画運動家の寺脇研。

飯島洋一（『狂い咲きサンダーロード』『戦争の犬たち』）をはじめ個性溢れる役者たちが、佐野の復活を祝福するかのよう集まった。映画の中盤、主人公がカメラに向かって延々と語りかける。その声は、かすれ、とぎれ、言葉にならない。しかし鬼気迫る姿から目をそらすことができない。震える魂の叫びを、なげなしの愛の物語を、ぜひ7月30日「映画と話そう@TAMA」で！

**チラシ設置協力店様** チラシを置かせていただいているお店を紹介します。いつもご理解、ご支援、設置を快くご承諾いただきありがとうございます！  
 たま泉、キャリアマム、うずら、ララン、モンキーランド、スパークル、たぬき、亀ハウス、はらっぱ、味市、市民活動情報センター、うさぎ、TAMA映画フォーラム、談singシネマ、鳥立ち、夢二、日本映画大学、アルテリオ、下高井戸シネマ、アップリンク、ヒューマンラスト、イメージフォーラム、ユーロスペース、映画美学学校、新宿ロフトプラスワン、シネマカリテ、K'sシネマ、テアトル新宿、ポレポレ東中野 ほか

## 場所：ダイニングバー・モンキーランド

多摩市豊ヶ丘1-11-1(小田急・京王多摩センター駅徒歩15分)

道順：多摩センター駅東口からセブンイレブン方向へ信号渡って線路下を直進、「麺でる」さんを左折、乞田川沿いを右折、2つの橋を過ぎてまっすぐ、白い階段がモンキーランドの入口です。



お申し込みは、予約フォーム [www.taenoha.com](http://www.taenoha.com) または 050-5891-1977 office@taenoha.com

主催：たえのは たえのは

たえのは 検索 /taenoha @taenoha